

議長記者会見（第55回）会見録

日時：令和8年6月18日（木）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室

会見を行う不破議長（右）と横山副議長（左）



それでは、議長として、定例会を終えての所感を述べさせていただきます。

今年の2月13日に伝統ある石川県議会の第108代の議長に就任してから、早いもので4カ月が経過いたしました。

今定例会は、議長就任後最初の定例会であり、緊張感をもって臨んだところではありますが、先ほど無事に閉会して、議長としての役割を果たすことができました。また、執行部や議員の皆さんをはじめ関係各位に深く感謝を申し上げます。

今年3月の知事選挙を経て、馳前知事から山野新知事へと県政の舵取りが交代いたしました。

まず、馳前知事におかれては、能登半島地震や奥能登豪雨からの復旧・復興をはじめ、県勢発展に多大なるご尽力いただいたということに、改めて敬意を表する次第であります。

また、山野知事におかれましては、私が平成19年、金沢市議会議員として初当選して以来、地方政治に携わる先輩として、ご指導いただいております。知事と議会それぞれの立場を踏まえつつ、新たな立場で県政を担われる山野知事とともに、県勢発展に向けて建設的な議論を重ねてまいりたいと考えております。

こうした県政の節目に当りまして、これまでの馳県政の取組がどのように継続・発展されるのか、あるいは見直されるのか、県民の関心も非常に高いと認識しております。二元代表制の一翼を担う議会として、新たな県政運営をしっかりと見極め、県民の負託に応える責任を改めて強く感じております。

そのような中、今定例会に先立ち、山野知事が選挙公約として掲げた政策について、知事から直接説明を受ける機会を設けるとともに、二重価格の導入の検討が注目を集めている兼六園の現状と課題への理解を深める研修会を開催いたしました。議会としても、こうした取組を通じて、本定例会で活発な質問戦が行われるよう準備を進めてまいりました。

それでは、今定例会を振り返ってであります。

今定例会は、山野知事にとって初の定例会であったということもあり、知事としての考え方、選挙時の公約との整合性、そして、前県政からの継続性を質すなど、知事の政治姿勢に関する質疑が数多く交わされました。また、再質問も相次ぎ、まさに活発な議論が展開されたと思っております。

知事は、議会や県民に自らの考えを伝えようと、一つ一つ丁寧に答弁していたという印象を受けましたが、その姿勢は評価できる一方で、代表質問においては、宮下議員の質問60分に対して、知事答弁が約90分に及んだということもありました。

質問時間の1.5倍という答弁は、さすがに長すぎるなど感じましたし、多くの議員からも同様の声が上がっておりました。これまでも議会として「答弁は簡潔に」、「質問時間と答弁時間は同程度に」と繰り返し口頭で申入れを行ってきた経緯がありますけれども、今回は文書によって改善の要請をしたということでもあります。

その後の一般質問では概ね改善され、適切な答弁時間のもとで、議事が進行できたと思っております。

山野県政においては、今定例会での議員との質疑のやり取りを踏まえた上で、しっかりと施策の実行に取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

なお、今定例会中に可決された意見書についてであります。意見書等調整会議におきまして、各会派から提案のあった7件の意見書を調整した結果、「社会全体で全てのケアラーを支援する仕組みの構築を求める意見書」の1件が可決されました。この意見書については、議会として国へ要望するものでありまして、国会及び関係行政庁へ提出することとしてお

ります。

次に、議会改革の取組であります。

県議会では、これまで議場のWi-Fi環境の整備やペーパーレス会議システムの導入など、議会のデジタル化を重点的に進めてまいりました。

今年度は新たに政務活動費の運用において、備品費など項目ごとに充てられる経費の上限額の見直しについて、議会改革推進会議で検討することとなりました。

現行の上限額は長らく見直されておりませんので、近年の物価高や人件費の上昇に追いついていない面もあるのではないかと考えております。社会情勢に即した見直しに向けた議論が深まることを期待しております。

次に、ふれあい親子県議会教室についてであります。

議会の広報広聴活動の一環として、平成26年度から開催して大変好評を得ております、ふれあい親子県議会教室を本年も8月に開催いたします。

今年度は、8月6日と7日の2日間の開催を予定しております。将来の有権者となる小学生とその保護者に議員との交流や議場探索を通じて、議会の役割や仕組みを楽しく学んでいただき、県議会及び議員をより身近に感じてもらえればと思っております。

最後に、これまでに特に印象に残った議長公務についてのお話をしたいと思います。

まず、4月29日の昭和100年記念式典であります。

天皇皇后両陛下ご臨席のもと、日本武道館で開催された記念式典に、石川県議会を代表し参列させていただきました。100年に一度のこの歴史的な節目に議長として立ち会えたことは、身に余る光栄であります。激動の昭和という時代を改めて振り返り、先人たちの苦難と復興の歩みに思いを馳せ、これからの未来を考える貴重な機会となりました。

次に、トキの放鳥式についてであります。

5月31日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席のもと、羽咋市において、本州初となるトキの放鳥式が行われました。美しいトキ色の羽を輝かせ、青空へと飛び立っていく姿に、思わず胸が熱くなりました。本州最後の生息地であった能登の空に、再びトキが舞う日が訪れたことは、長年にわたりご尽力いただいた地元の皆様、関係者の皆様のたゆまぬご努力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

能登復興のシンボルとして大空を舞うトキの姿が、被災地の皆様の心に希望を灯し、ふるさと能登の未来を切り拓く力となることを、心より祈念いたしております。議会としても、能登の創造的復興が一層力強く進むよう、引き続き取り組んでまいります。

私からは、以上であります。

<質疑応答>

記者

山野知事には政治姿勢に関する質問が多くあり、活発な議論がなされていたとのことですけれども、今回、山野知事として初めての定例会となりましたが、議長から見て、定例会が始まる前のイメージと実際にやってみての印象を比べて、知事の答弁の仕方とか議会の姿勢とかどのように感じられたでしょうか。

不破議長

私自身は、山野知事が金沢市長時代に一度ではありますが、市議会において議員と市長という立場で定例会に出席しています。日を迫うごとに徐々に慣れてきているなという印象を持っております。

最初のうちは、何かまだエンジンがかかっていないみたいな感じで見ていましたが、その後はもう、自然に対応されていたのではないのでしょうか。

記者

知事選の経緯から、議会と山野知事との距離感というのが非常に注目されていたかと思うのですが、今回定例会を終えて、距離感に変化があったのか、まだ様子見の段階なのかというところをお聞かせください。

不破議長

その距離感みたいなものは、議会側もまだ手探りなんじゃないかなという感じで受け止めています。

やや厳しめの質問もあったかと思いますが、選挙後初めての議会ですから、知事としても、当然ある程度は想定されていたでしょうし、厳しいといっても、議場でのやり取りですから、お互いに敬意を払いながら議会が進んでいたものと認識しています。

そうした中で、どの程度の距離感で臨むべきかについては、探り探りのところはあったかなという印象を持っています。

横山副議長

全体として、慎重に対応されていたという印象を持っております。

知事選で掲げられた公約が、現時点では必ずしも政策に十分反映されていない部分も見受けられることから、今後、議会と執行部がどのような関係で議論を深めていくのか注視していく必要があると感じています。

もう一つは、ちょっと辛辣な言い方をするかもしれないけれども、答弁の中で、知事はリーダー像として「方向性を指し示すこと」「率先垂範」「仲間の意欲を高めること」の3点を挙げていました。しかしながら、現時点では、県政をどの方向へ導こうとしているのかが全く見えてこないところがあると感じております。

それは、議会との駆け引きをこれからしていかなければいけないということで、まだ色を出していない可能性もあるのではないかと受け止めております。

記者

山野知事ご自身は、あまり色を出さずに臨んだということでしたけれども、もう少し出しでも良かったのではないかとお感じでしょうか。

横山副議長

今までの流れをそのまま踏襲されているだけで、奥能登公立4病院や北陸新幹線の課題についても同様であります。今後どのように対応していくのかという点について明確な方向性が示されていない印象を受けました。

記者

知事として、方針を示すような場面が多くなかったということでしょうか。

横山副議長

例えば、予算委員会における堂前委員とのやり取りもそうだと思いますが、費用対効果で物事を判断しているのか、いろんなことが出てくると思います。今後の施策を進める上では、費用対効果の観点も重要ではありますが、それだけで判断してよいのかという問題意識もあります。

一方で、将来にわたり赤字を垂れ流していいというわけではないでしょう。そうした点も踏まえて、適切な判断基準を示した上で、政治家として、しっかりと腹をくくってやってもらいたいと思います。

以 上